

# 水前寺江津湖公園利活用・保全計画 ( 骨子 ( 案 ) )





# < 骨子（案）の構成 >

## 1 現状と課題

## 2 計画の内容

- 2－1 計画の概要（対象区域・期間・基本理念）
- 2－2 計画の位置づけ
- 2－3 基本方針
- 2－4 計画推進のための施策（自然環境・歴史文化資源の保全）
- 2－5 計画推進のための施策（公園の利活用）
- 2－6 管理・運営
- 2－7 民間活力の導入
- 2－8 関連計画について（動植物園マスタープラン）
- 2－9 外国人観光客受け入れの推進（（仮称）国際観光重点地域）
- 2－10 事業展開

## 今後のスケジュール

# 1 現状と課題

## 水環境の保全・外来生物の増加

40万トン／日におよぶ湧水により豊かな自然環境が形成され、多くの希少野生動植物が生息している。

→江津湖の湧水量は、近年回復傾向にあるものの、長期的に見ると減少している。

→水質の面では、硝酸性窒素等による水質悪化が課題となっている。

→オオクチバスやボタンウキクサなどの外来生物の影響により、江津湖本来の自然環境が変化し、生物多様性が損なわれつつある。



(オオクチバス (特定外来生物))



(ボタンウキクサ (特定外来生物))

## 歴史文化資源の顕在化

湧水を活かし優れた庭園景観を有する水前寺成趣園などの大名庭園や、明治の文豪夏目漱石がボート部の部長として江津湖に足を運び、この地の自然を詠んだ俳句をつくるなど、清れつな湧水が多くの人を惹きつけ、多くの歴史文化資源が存在する。

→貴重な歴史文化資源を活用、継承していくための、魅力ある環境整備が必要である。



(水前寺成趣園)



(漱石の句碑)

## 公園施設の老朽化

120haを超える広大な敷地に多くの公園施設が点在している。

→多くの施設が更新時期を過ぎており、適正な更新が必要となっている。



(老朽化したベンチ)



(老朽化した看板)

## 公園の利活用

これまでの公園行政は「公園を守る」という視点に重点を置いてきたことから、必ずしも市民のニーズを満たしてきたとは言えない。

→江津湖のポテンシャルである豊かな自然環境と共存共生を図りつつ、「いかに公園を使いこなすか」といった視点からの取組みが重要となっている。



(キャンプ)



(マルシェ)

## 動植物園の魅力UPと公園との一体性

動植物園は、現在の江津湖畔に移転して50年を迎える中、施設の老朽化や厳しい収支状況、江津湖に隣接する恵まれた立地条件を活かしきれていないなど、多くの課題を抱えている。

→動植物園の魅力アップに向けた施設整備や運営手法、公園との一体性などに関して検討を進めていく必要がある。



(動植物園の老朽化した施設)

## 公園行政を取り巻く変化への対応 (都市公園法の改正 (2017年6月施行))

都市公園の再生・活性化の推進のための法改正

～「量を整備するステージ」から「公園の多機能性を最大限に発揮するステージ」へ～

→①ストック効果の向上 ②民間との連携の加速 ③公園を柔軟に使いこなす

(主な改正内容) 民間事業者による公共還元型の収益施設の設置管理制度 (P-PFI)

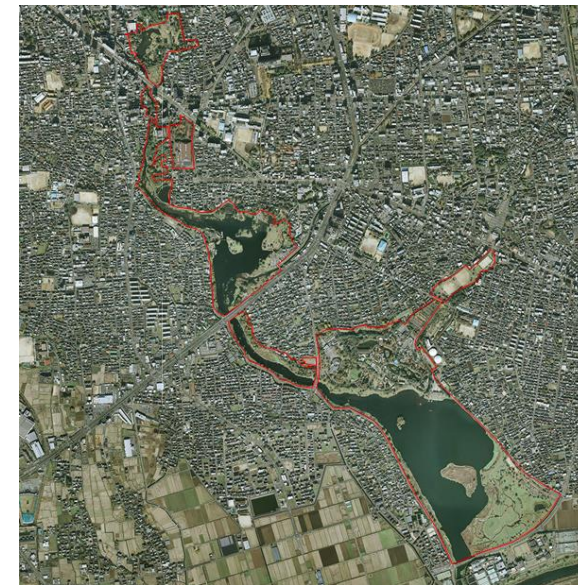
## 2-1 計画の概要（目的・対象区域・期間・基本理念）

### （1）計画策定の目的

水前寺江津湖公園は、街なかにながら阿蘇の伏流水がもたらす1日約40万トンにもおよぶ豊かな湧水がある「水の都くまもと」の象徴としての場所であり、市民憩いの場所となっている。しかしながら、外来生物の増加や公園施設の老朽化、市民ニーズの多様化に伴う対応、公園行政を取巻く変化への対応といった様々な課題を抱えている。これらの課題への対応とともに、このかけがえのない貴重な財産を次の世代へ継承していくため、本計画を策定するもの。

### （2）計画の対象区域

対象区域は、水前寺地区、出水地区、上江津地区、下江津地区（動植物園含む）、庄口地区、広木地区の6地区（計126.9ha）を本計画の対象区域（図中赤枠で示す区域）とする。



### （3）計画期間

計画の目標年次は、2039年度とします。

→短期（～緑化フェア（2021年度））、中期（2029年度）、長期（2039年度）

### （4）基本理念

**豊富で清れつな湧水と生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、人にとっても生きものにとっても、上質な公園空間の創出を実現する。**

基本理念に基づき、「自然環境・歴史文化資源の保全」と「利活用」の両面からの基本方針を設定する。



# 2-1 計画の概要（水前寺江津湖公園のポテンシャル）

## ①豊かな自然環境

（清らかな地下水と豊かな緑、多様な動植物）

『日本の重要湿地500』（環境省：生物多様性保全の観点から重要な湿地を選定）

名称：江津湖・上江津湖水系

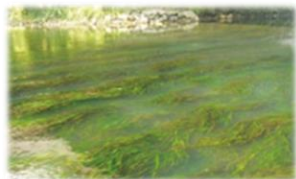
選定理由：①江津湖水系：ヒラモ・ヒメバイカモの生息地、九州の湧水植生の代表  
②上江津湖水系：スイゼンジノリ（藍藻）の生育地

『平成の名水百選』（環境省：水環境保全の一層の推進を図ることを目的に選定）

名称：水前寺江津湖湧水群



（自噴水）



（ヒラモ）



（ヒメバイカモ）

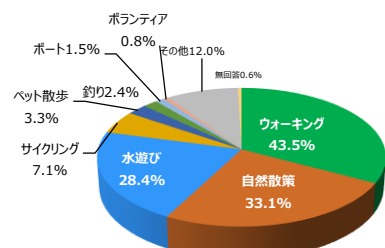


（ミナミメダカ）

## ②水と緑、オープンスペースがもたらす多面的な機能

●ウォーキングなどの健康づくりや自然散策（散歩）、子ども達の水遊びなど、様々な目的で公園を利用されている。

- ①やすらぎ・レクリエーション
- ②健康づくり
- ③地域コミュニティ
- ④防災 など



（H29利用者アンケート調査・サンプル数885）



（広木地区・休日風景）



（みなも祭り）  
※来場者19,000人・2日間



（ちびっこプール）  
※約18,300人／H29・44日間



（健康づくり）



（美しい景観）

## ③歴史文化資源

- 江津湖周辺には、歴代藩主が整備した湧水を活かした優れた庭園景観を有する大名庭園がある。
- 明治の文豪夏目漱石が、ボート部の部長として江津湖に足を運び、この地の自然を詠んだ俳句をつくるなど、清れつな湧水が多くの人を惹きつけ、多くの歴史文化資源が存在する。



（水前寺成趣園）



（旧細川砂取庭園）



（夏目漱石の句碑）



（中村汀女の句碑）

## ④動植物園

- 県内唯一の動植物園
- 世界の希少野生動物であるシシオザル、シフゾウ、キンシコウ（日本唯一の飼育園）や種の保存に取り組んでいる。
- 公立動物園（71動物園）での遊戯施設収入は日本一



（シシオザル）



（キンシコウ）  
【日本唯一の飼育園】



（モノレール）  
【約126,000人／H27年】



（ミラーハウス）  
【日最大1,480人（H30.5.5）】

## ⑤様々な周辺施設

### ■県立図書館、くまもと文学・歴史館

- ・県内唯一の保存図書館（約100万冊）（資料の保存機能に重点をおいた図書館）
- ・古文書・古記録の保管（熊本県に関わる古い記録）
- ・近代文学資料の保管（夏目漱石や小泉八雲など、熊本ゆかりの32名の文学者）



（熊本県立図書館）

### ■市総合体育館・青年会館

- ・様々な施設（大中体育室、武道場、トレーニング室、サウナ、音楽室、プール、料理室、茶室、弓道場）とホール（400人収容）、大小会議室を有する。
- ・健康運動指導士やトレーニング指導士などの有資格者を有する。



（体操教室）

## 2-2 計画の位置づけ

●本計画は、水前寺江津湖公園（動植物園含む）の「利活用」と「自然環境・歴史文化資源の保全」の両面における今後の方向性と具体的な取組みを示したもの。

●本計画を、市民、事業者、関連団体、行政等が共有し、それぞれの役割を認識して、着実な事業推進を図り、公園の持つ魅力を広く発信していくものとします。

### 熊本市第7次総合計画

【目標年次】2023年

【めざすまちの姿】『市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたくなるまち、「上質な生活都市」』



### 第2次熊本市都市マスタープラン

【目標年次】2025年

【めざすまちの姿】『豊かな水と緑、多様な都市サービスが支える活力ある多核連携都市』  
～恵まれた自然や歴史・文化と機能性の高い都市空間が調和し、生活圏が連携することで、誰もが輝く都市をつくる～



### 水前寺江津湖公園利活用・保全計画

【目標年次】2039年度

【基本理念】

豊富で清れつな湧水と生物多様性の保全とともに、江津湖の持つポテンシャルを最大限に発揮し、人にとっても生きものにとっても、上質な公園空間の創出を実現する。

「熊本市動植物園マスタープラン（案）」

【目標年次】2028年

【コンセプト】「選ばれる。好きになる。そして、愛される熊本市動植物園へ」



## 2-3 計画の概要（基本方針）

### 基本方針① 豊かな水環境の保全

- 水田湛水の実施など、豊富な江津湖の湧水を将来にわたって保全する（水量の保全）
- 清れつな江津湖の水質を将来にわたって保全する（水質の保全）
- 地下水を育む上流域とのつながりや連携を深めることで、“水循環”の大切さを理解する。

### 基本方針② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生

- 江津湖が誇る豊かな自然環境と多様な生きもの（生物多様性）を保全する
- 江津湖の生態系を脅かす外来生物の防除を推進する
- 自然と人との共存・共生を図る

### 基本方針③ 歴史・文化の継承と活用

- 歴史・文化資源の適正な保存とともに、資源を活かした魅力ある環境を整備する
- 歴史・文化資源を活かしたストーリーづくりにより、各地区の連続性と一体性を向上させる
- 散策ルートの設定と活用による、歴史・文化を学べるしゅみを整備する

### 基本方針④ 感じ・憩い・学び・発信する場としゅみの整備

- 自然環境や歴史・文化資源に関する情報を集積することで、効果的な事業展開につなげる
- 関連団体や学校教育と連携した体験型プログラムなどの展開により、江津湖の自然を感じ、学ぶ機会を創出する
- 貴重な資源を次世代へ継承する担い手を育成する

### 基本方針① 「魅力」と「質」の向上

- 恵まれた自然環境（水辺、花緑、動植物など）を活かした公園空間を創出する
- 地域資源（美しい景観、歴史、文化）の顕在化を図る
- 「利用者ニーズにあった公園運営」への転換を図る
- 観光客にアピールできる個性に磨きをかける

### 基本方針② 適切な公園経営・資産運用

- 面積126haを有する江津湖公園を資産と捉え、資産ストック効果をより高める
- 江津湖公園の持つポテンシャルを柔軟な発想で引き出す
- 民間との連携の加速による公園の魅力向上を図る
- 民間活力を発揮、引き出しやすい環境を整備する（ガイドライン）
- 得られる収益を、維持管理費用、新たな魅力向上事業など、来園者のサービス向上につなげる

### 基本方針③ 運営手法と担い手づくり

- 公園キャストの発掘、働きかけと、キャストネットワークを拡大する
- 地域のエリアマネジメント組織による公園運営へシフトする
- 市民・事業者・行政が連携（知恵を絞り）し、公園の利用幅を拡大する

# 2-4 計画推進のための施策（自然環境・歴史文化的資源の保全）

## 基本方針

## 取組み項目

## 施策事業イメージ ※現段階のイメージ

### ① 豊かな水環境の保全

①-1 豊富な湧水の保全・管理対策

①-2 清れつな水質の保全対策

①-3 湧水を育む上流域とのつながり  
(水循環)

①-4 地下水・湧水のPR



(間伐材を活用したベンチ)  
新規事業



(水源かん養林整備事業)  
継続事業



(水田湛水事業)  
継続事業

### ② 生物多様性の保全と 自然と人との共存・共生

②-1 自然環境の現状把握

②-2 自然環境の保全・再生

②-3 外来生物の防除の推進

②-4 自然と人との共存・共生・  
配慮のあり方 (ゾーニング)



(生物調査 (モニタリング))  
拡充事業



(駆除計画の作成)  
新規事業

### ③ 歴史・文化の継承と活用

③-1 歴史的・文化的資源の  
保存と活用

③-2 連続性・一体性の創出

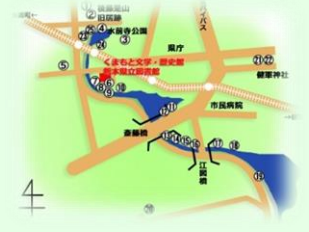
③-3 散策ルートの設定と活用



(庭園文化の発信)  
新規事業



(観光ルート (文学碑))  
新規事業



### ④ 感じ・憩い・学び・発信 する場としくみの整備

④-1 情報の集積

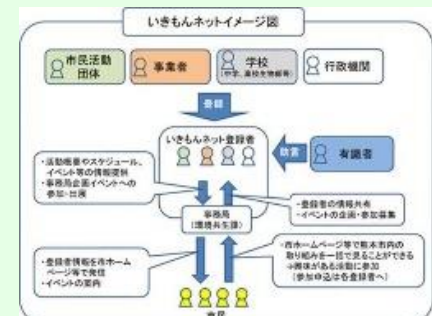
④-2 魅力・価値の発信

④-3 環境教育、体験型プログラムの整備

④-4 担い手づくり 次世代への継承



(ビジターセンターの設置)  
※自然環境の情報の案内展示・公園の利用案内  
新規事業



(担い手づくり (自然・文化))  
拡充事業



# 2-5 計画推進のための施策（公園の利活用）

基本方針	取組み項目	施策事業イメージ ※現段階のイメージ
①「魅力」と「質」の向上	①-1 魅力の発掘	   <p>(魅力の発掘（バーベキュー・グランピング）) 新規事業</p> <p>(公園を核とした健康づくり) 拡充事業</p>
	①-2 健康プログラムの展開	
	①-3 園内の回遊性向上	   <p>(ちびっこプール・ゾウさんプールの再整備) 新規事業</p> <p>(駐車場の拡充) 新規事業</p>
	①-4 子ども等の遊び場整備	
	①-5 職場外（公園）での会議活用	   <p>(一体的な整備（カフェ等）) 新規事業</p> <p>(一体的な整備（施設デザイン）) 新規事業</p>
	①-6 動植物園との一体的な整備	
	①-7 施設の整備 (老朽化対応、トイレ等のバリアフリー化、多目的化等)	
	①-8 情報の発信	
②適切な公園経営・資産運用	②-1 民間活力の導入	  <p>(カフェ等の設置) 新規事業</p> <p>(施設改修（ネーミングライツ）) 新規事業</p>
	②-2 マーケティングによるブランド化	
	②-3 防災・減災機能の強化	
③運営手法と担い手づくり	③-1 人材育成・担い手づくり	  <p>(エリアマネジメントの導入) 新規事業</p> <p>(イベントガイドラインの導入) 新規事業</p>
	③-2 エリアマネジメントの導入	
	③-3 効果的な事業展開・事業検証	

## 2-6 管理・運営

- ①管理・運営においても、民間活力を発揮、引き出しやすい環境を構築し、得られる収益を、維持管理費用・新たな魅力向上事業など、来園者のサービス向上につなげていく。
- ②地域住民、事業者、関連団体等が主体となった公園運営（エリアマネジメント）へのシフトを進めていく。

## 2-7 民間活力の導入（マーケットサウンディング結果（2018年8～10月、提案企業7社））

### ■マーケットサウンディングの目的

水前寺江津湖公園（動植物園含む）を対象とした市場性の有無の把握（ハード面、ソフト面）

### ■マーケットサウンディングの結果

対象施設（項目）	提案内容
水前寺江津湖公園	①広木地区における体験型施設等（バーベキュー、グランピング）の設置 【民設民営】 ②自然や地域性を活かしたイベントの企画運営 【民営】 ③イベント後のベンチの寄贈 【民設】
動植物園	①カフェやレストランの整備 【民設民営、公設民営】 + 正門・西門・南門の改修 【民設】 ②遊具の設置（アドベンチャーパーク、ジップライン、木製遊具等） 【民設民営】 ③全天候型の屋内キッズスペースの整備 【民設民営】 ④エネルギーの再資源化施設の整備 【民設民営】 ⑤駐車場の複層化による低層階への店舗の設置 【民設民営】 ⑥多言語対応看板の設置 【民設民営】 動植物園
事業手法	Park-PFI（公募設置管理制度）やPMO（指定管理者制度）、PPP（官民連携事業）など

→来年度、改めてマーケットサウンディング（公募条件の整理）を行い、2019年度中の事業者公募を予定



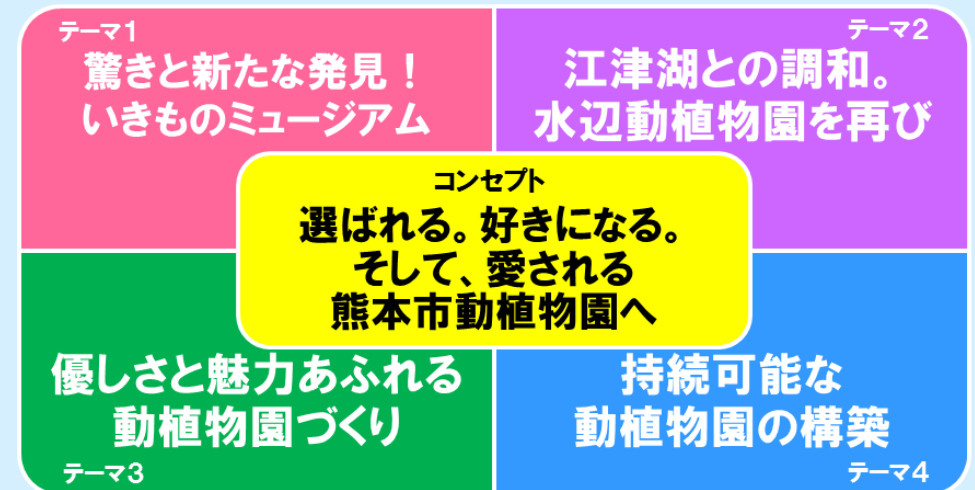
## 2-8 関連計画について

公園区域内に位置する動植物園は、水前寺江津湖公園全体の魅力を織りなす1つの拠点であり、別途作成する動植物園マスタープランについても、本計画との整合を図っていきます。

### コンセプトとテーマ

「選ばれる。好きになる。」  
そして、愛される熊本市動植物園へ」

動植物園は、今後集客性の向上や施設の活性化を図るために、園全体の再編整備を行い、新たな魅力を創出していくことが必要であると考え、江津湖畔の自然環境と調和のとれた快適で魅力的な動植物園を目指します。



### 施策事業例（一部抜粋）



(動植物園開園100周年に向けた整備計画)  
新規事業



(老朽化施設の改修)  
拡充事業



(学習プログラムの整備)  
拡充事業



(新たな遊戯施設の導入)  
新規事業

## 2-9 外国人観光客受け入れの推進

水前寺江津湖公園の持つ魅力を広く国内外に発信していくため、民間と行政が連携し、外国人観光客の受け入れを推進していく（（仮称）国際観光重点地域）。

- < 取り組み施策（案） >
- ・ 多言語対応（案内サイン、交通機関標識、ツアーガイド、パンフレット、音声案内、飲食宿泊施設の案内表示等）
  - ・ 洋式トイレ化                      ・ 電子マネー
  - ・ ナイトタイムエコノミー（動植物園、周辺施設等）                      ・ 周辺市町村の庭園と連携したツーリズム展開

## 2-10 事業展開

(1) 事業推進体制	多様な主体の参画を募るとともに、関係者間の役割分担とリスク管理を明確にしたスキームづくりを行い、市民、地域、関連団体、民間事業者、行政の連携により事業の着実な推進を図る
(2) 事業スケジュール	素案作成までに、各施策の「短期(～緑化フェア)」、「中期(10年)」、「長期(20年)」を位置づけ
(3) 事業費	素案作成までに、概算事業費を算出

### < 今後のスケジュール >

- |         |                   |                   |
|---------|-------------------|-------------------|
| 2019年2月 | 政策会議              | → 議会報告（骨子）        |
| 4月～5月   | 市民意見聴取（オープンハウス等）  | → 政策会議 → 議会報告（素案） |
| 7月～8月   | パブリックコメントの実施      |                   |
| 9月      | 議会報告（パブリックコメント報告） | → 計画の策定           |



# 用語解説

用 語	解 説
ストック効果	整備された社会資本が機能することで、整備直後から継続的かつ中長期にわたって得られる効果。 (国交省；インフラストック効果より)
P－P F I	飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置又は管理と、その周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度。（都市公園法第5条の2～5条の9）
P M O	PMO(Park Management Organization)の略で、公園を一体管理し、新たな魅力向上事業を実施する民主体の事業
公園キャスト	公園利用者であると同時に、様々な活動プログラムの企画や実施を担う市民・事業者等。
キャストネットワーク	公園キャスト同士の横の交流やつながり。
ビジターセンター	本計画では、江津湖の動植物や、歴史文化資源などに関する情報を集積発信するスペースと定義する。
グランピング	「グラマラス(魅惑的な)」と「キャンピング」を掛け合わせた造語で、快適な設備やサービスを利用しながら、自然の中で快適に過ごすキャンプのこと。
ネーミングライツ	公共施設の名前を付与する命名権と、付帯する諸権利等、をいう。スポーツ施設などの名称に企業名や社名ブランドをつけることであり、公共施設の命名権を企業が買うビジネスのこと。
マーケット サウンディング	土地などの活用方法について、公募によって民間事業者から広く意見や提案を求め、事業への有用な意見やアイデアを収集することを目的とした、民間事業者と市との直接の意見交換による調査。
ナイトタイム エコノミー	夕方から夜に行われる経済活動の総称。